

ワニ氏とヤマト王権のせめぎ合い(その1)【河内ルート編】

日時:11 月 17 日(日)午前 10 時

集合:近鉄生駒線一分駅

行程:一分駅→竹林寺→歓喜の湯→賢聖院(檜木峠)

→矢田山遊びの森子ども交流館周辺→追分神社周辺

→富雄丸山古墳→登彌神社→郡山城跡天守台

→近鉄郡山駅解散

【感想文 11 月例会だより】

11 月とは思えない暑さの中、近鉄一分駅から郡山駅までの約 15 キロの行程で、1 日をかけてワニ氏の本拠地である和邇と春日を生駒山側から眺め歩く例会に参加した。

近鉄一分駅で青柳先生からご説明をいただき出発。竜田川沿いでススキを眺めながら歩き、竹林寺へと向かう。ここでは竹林寺古墳と竹林寺内の行基墓・忍性墓を見学。古墳は前方部が一部なく、後円部を登らせていただく。

行基墓は東大寺大仏殿を眺めるように造られたようで、当時この辺りで東側を見るには高く見通しが良いのであろうと感じる。

竹林寺を後にして竜田川沿いをまた歩き、暗越奈良街道をしばらく進む。結構な登り坂である。会報の写真を参考に、ポイントごとの景色を楽しみながら歩き歓喜の湯に到着。生駒山・暗峠の素晴らしい眺めをみることができた。ここで先生から地形や暗峠の説明を聞く。暗峠といえば日本で一番の急坂国道といわれている峠道であり、春日から河内へ向かう最短ルート上にある。誰でも通れるような簡単な道ではない。4 世紀ごろの道路事情がどの程度整備されていたのか分からないが二、三十代の健脚な若者たちが主に河内と奈良を行き来できたのではないかとのこと。此処までの道のりだけで十分想像ができる。

一息つき、次の目的地にむけ出発。「今日一番の上り坂です」と先生からの一言を聞き気が引き締まる。汗をかきかき『檜木峠』に行く。ようやく登り切った先の矢田山遊びの森では、普段使わない足腰の筋肉に張りが出始めたのか、ストレッチを入念にしている方々も。私自身も日ごろの運動不足を感じながらもほっと一息つきながら昼食をとる。

そして峠を越え追分を過ぎると下りになり、澄んだ空気を味わう余裕を取り戻し足取りが軽くなる。ようやく東側へ出ると大和平野、春日方面、その右手に和邇の拠点を見ることが出来る。街道を過ぎると富雄丸山遺跡までくる。今日一番楽しみにしていた場所なのだが、残念ながら富雄丸山古墳は現在立ち入り禁止である為、墳頂から眺めることは叶わなかった。円墳の中でも、ひときわ大きく堂々と居座るその様は、この辺り一帯を制した別格の大豪族の力の

凄さを今なお感じることができた。

最終目的地の郡山城跡へ向かう道中で登彌神社に立ち寄り休憩をさせていただくことに。この神社に天孫降臨の伝承の話があるとの事。主祭神に登美饒速日命と天児屋根命の銘があった。神話では、河内に降臨し登美と言う地に住んだとされる。饒速日命伝承の地も同時に巡ることができ別な楽しみも味わうことができた。

またしばらく歩き、郡山城跡にようやくたどり着いた。

今回、生駒から大和郡山まで歩くことにより、古墳の造営時期や配置から、ワニ氏の交易の一つである河内ルートを、大和王権がどの様に規制していったのかを知ることができた。

木材生産で扱っていたヒノキが4世紀ごろを境に急激に需要が高まる。その量に比例して勢力を大きくしていったワニ氏を、抑えこむために動いた大和王権側によりワニ氏はその後変容する。

今回の最終目的地の郡山城跡天守台から、奈良平野を眺めていると、約 1600 年前にこの地で起こった出来事や当時の人々の思惑やせめぎあいを想像することができ、とても面白かった。

最後にご案内くださった青柳先生、並びに友史会運営委員の皆様にご心からお礼申し上げます。

大阪府 岡本 究

【記録写真】

朝礼



竹林寺古墳への坂を上る



竹林寺古墳前の説明



生駒山と暗峠を眺める



矢田山遊びの森



追分梅林あたりから東方を望む



富雄丸山古墳での説明



郡山城跡天守台



郡山城跡天守台から奈良盆地の北東方面を望む



以上